



CONTENTS

- メッセージ／文京みらい会派レポート—これからも変えていきます、文京区！…………… 1
- 議会レポート① 本会議一般質問「区民と協働で政策提案型議会をつくる」ほか…………… 2
- インタビュー「誰もが政治の主役になれる社会をつくるために」…………… 3
- 議会レポート② 委員会（予算・決算審査、建設、災害対策、議会運営）…………… 7
- 地域レポート「コミュニティ道路」「指定避難所」／プロフィール…………… 8

沢田けいじ Sawada Keiji Report 区議会レポート

文京区議会議員 / 会派 文京みらい / 保育士 / 防災士 / 3児の父
 【所属委員会】 建設委員会 / 災害対策委員会 / 予算審査委員会 / 決算審査委員会 / 議会運営委員会

2022 spring

Contact

東京都文京区根津 2-34-21
 info@sawadakeiji.jp
 080-5697-8739

公式 WEB サイト
<http://sawadakeiji.jp>



Facebook
 @sawadakeiji.jp



Twitter
 @sawadakeiji1979



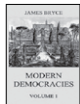
危機を契機に —ボトムアップの政治と社会をつくる

新 型コロナウイルス感染症の流行の長期化が、私たちのいのちと暮らしのあらゆる場面に深刻な影響を及ぼしています。亡くなられた方に心から哀悼の意を表するとともに、闘病中の方や後遺症に苦しんでいる方の一日も早い快復をお祈りいたします。また、今も危機と向き合いながら最前線で働いている方々と、制約のある日々を支え合いながら暮らしているすべての方々に、深く感謝を申し上げます。

地 方自治も分岐点を迎えています。危機を乗り越えるには、より多くの知恵と力が必要です。多くの課題は複雑で、すぐには解決できませんが、その分、問題をオープンにし、多くの人と一緒に解決方法を探ることができます。開かれた政治（open government）をとおして、誰ひとり取り残さない持続可能な社会を実現できるかどうか、自治のあり方も問われています。

コ ロナ危機は、私たちの生活を支える政治や社会の脆弱さを浮き彫りにしました。特に、感染拡大防止と社会経済活動の両立という難題は、政治にも社会にも、新しい方法の必要性を投げかけました。また、私たちがいかに人と人との支え合いや助け合いに依存しているかも明らかになりました。失ったものの大きさを共有し、困難や苦しみに向き合うことは、社会のあり方を見直す契機にもなります。

※ 1 イギリスの政治学者、ジェームズ・ブライスが著書『近代民主政治』に記した言葉で、顔の見える地域社会での自治の営みが、民主主義の基盤であることを述べたものです。これを実現する方法については、3ページ以降のインタビューでも取り上げていますので、ご覧ください。



James Bryce. 1921. Modern Democracies

メッセージ

「地 方自治は民主主義の学校」*1 という言葉があります。民主主義はただそこにあるものではありません。私たち一人ひとりが学び、守り、育てていくものです。共に問題を発見し、議論し、行動しようとする民主主義の実践者を勇気づけ、力づけることが、ボトムアップの政治*2 の実現には不可欠です。一緒に始めませんか。

※ 2 生活と政治をつなぐボトムアップの政治のあり方については、公式 web サイトのインタビュー記事をご覧ください。



文京みらい会派レポート —これからも変えていきます、文京区！

私たち「文京みらい」は、区民とともに知恵と力を集め、未来の子どもたちに責任を持って引き継げる文京区をつくるために集った会派です。透明で開かれた区民参加型の区政へ、誰もが尊重され幸せに暮らせる社会へ、誰もが平等に共に生きる未来へ — 私たちの理念や活動については、「文京みらい」区議会レポート（2021）をご覧ください。



- 文京みらいが考える議会改革
- 文京みらいの予算修正案
- 誰ひとり取り残さない社会の実現のために etc.

こちらで読めます



議会は区政の課題と解決策を、区民を代表して議論する場です。なかでも、一般質問は区民の意見や関心を政策や制度の改善につなげるための議論と提言を呼びかけるものです。以下に私の主な質問と答弁を抜粋し、経緯やポイントを解説します。
※このほかの質問と答弁は公式 web サイトをご覧ください。

区民と協働で政策提案型議会をつくる

質問と答弁(全文)

公式
WEB
サイト
CHECK!



質問要旨 1. パンデミックや災害から区民の生命と財産を守る3つの基本方針 / 2. SDGsの理念である誰ひとり取り残さない社会を実現する7つの施策(住み慣れたまちで暮らし続けられる持続可能なまちづくり、行財政運営のプロセスの透明化と協働・協治の推進、議会事務局の進化と二元代表の一翼を担う協働型議会の推進 etc.)

コロナ禍の区政運営の方針見直しについて

—「選択と集中」から「リスク分散」へ

Q. 【沢田】

危機管理には平時の効率を優先した「選択と集中」戦略だけでなく、**失敗や想定外の事態を含めた「リスク分散」戦略**が必要では？

A. 【区長】

平常時からさまざまな状況を想定し、突発的事態への柔軟で的確な対応やリスク分散に努める。

Q. 【沢田】

保健師や福祉、保育・教育、防災など、**きめ細かな対応と信頼関係が必要とされる分野での計画的な職員確保**が必要では？

A. 【区長】

継続的な対応を要する場合は内容や期間等を把握し、状況に応じた人員配置を行う。

【解説】 昨年的一般質問*でも、「**危機管理には最悪の事態への想像力が必要**」との答弁がありました。コロナ以前は「選択と集中」で事業や職員の無駄をなくす方針が主軸だったため、過度な絞り込みがリスク分散の不足やコロナ対応の不備の原因になりました。職員体制にも一定の余裕がなければ危機対応や新規の事業立案ができませんし、コロナ対応で一時的な職員の兼務や流動を繰り返すと、積み重ねた信頼や組織力も崩れてしまいます。**危機の長期化に備え、専門職を中心に計画的な人材確保**が必要です。また、**議会との役割分担**も

必要です。最前線で危機対応にあたる行政機関と、先を見通した長期的な判断を担う議会が協働することで、**想定外の射程を広げた効率的で効果的な危機管理**が可能になります。

※昨年9月の本会議一般質問では、**コロナ禍の危機管理と区長のリーダーシップ**について質問しました。



コロナ禍の地方分権と区民参加について

—区民との対等なパートナーシップを

Q. 【沢田】

国の施策が区民にとって最適かを判断するには、**多様な区民の声を集める仕組み**が必要では？

A. 【区長】

住民の生命と財産に危険や損害を及ぼす事態が生じたときは迅速に判断し行動する。その過程では情報を十分に提供し、意見や苦情を速やかに集約して改善する。

Q. 【沢田】

区民が政治の担い手であることを自覚することで、**地方自治の理念を具体化し、地域の政治文化も成熟できるのでは？**

A. 【区長】

政策立案、実施、評価への参画や協働を推進することで、区民に身近に感じてもらえ、信頼を得られる施策を展開していく。

【解説】 危機対応の基本は**風通しのよいオープンな協力関係**です。①より多くの区民に幅広く情報を共有し、問題の所在や理想と現実のギャップを知らせて参加を促すこと、そして、②区民の声を集めて議論し、よりよい政策を判断・提言する議会の機能を高めることで、**区民と区と議会の対等な関係のパートナーシップ***にもとづく政策サイクルを起動する。コロナ危機でさまざまな政治課題が前景化し、区政への期待や参加意識が高まっている今が、**地方自治のあり方を見直すチャンス**です。



※区民、区、議会の三者の役割と責務は、「**文の京**」自治基本条例に定められています。



Column インターネット議会中継について

本会議の一般質問や所信表明の動画は区議会ホームページで公開しています(区民の要望を受け、2020年11月定例議会から一般質問の生中継を開始しました*1)。



インターネット議会中継



*1 区民の立場で区政の改善を目指す「**文京区民オンズマン**」設立準備会が2020年9月に調査した23区議会のネット中継の現状と、これを受けて同会が区議会に提出した質問書と議長からの回答については、同会の公式 web サイトをご覧ください。



なお、**本会議以外の委員会などの中継**は未実施のため、発言内容は傍聴や会議録でしか確認できません。委員会の生中継や本庁舎、出先機関での放映など、分かりやすい情報提供や幅広い区民参加の仕組みづくりが課題です*2。

*2 開かれた議会の実現のため、過去に**委員会の生中継を求める区民の請願**も提出されましたが、委員の発言時間や露出度の公平性などの問題で不採択されました。審査の経過や結果は会議録検索サイトから2019年9月17日の議会運営委員会の会議録をご覧ください(請願受理第26号)。



誰もが政治の主役になれる社会をつくるために

議会活動の抱負や開かれた自由な議会の実現方法について答えた前回のインタビューに続き、コロナ禍による変革のチャンスやボトムアップの政治参加の方法についてお話ししました。

生い立ちや政治家を志した経緯などは、公式ウェブサイト上のインタビュー記事をご覧ください



政治と社会のあり方を見直す

— コロナ危機がもたらした変革のチャンス

— コロナ禍が続いています。政治への批判もありますが、いかがですか？

住まいや仕事を失った人、孤独や貧困に苦しむ人が増えています。支援が届かない人も大勢います。危機が起きる前に備えるのが本来の政治ですが、社会システムが複雑

化して後手に回っています。政治のあり方自体に見直しが必要だと思います。

— 区政についてはいかがですか？

地方自治の役割も見直されています。国や都の対策が不十分なときほど、独自の対策や発想が問われるからです。危機を乗り越えるには、より多くの知恵と力が必要ですし、区や区議会のあり方も再確認が必要です。



— 議会のあり方もですか？

議会は住民の代表であり、地方自治の根幹です。コロナ危機で議会の存在意義が見直され、住民の関心が高まっているのが進化のチャンスだと思います。

— どんな風になですか？

より多くの住民に正しい情報を伝え、声をまとめて提言する議会です。行政機関が危機対応で忙しいときほど、議会の成熟度が問われます。

— たとえば？

正しい理念や方針を掲げているか、住民と協働して提案や評価をしているか、議員一人ひとりが能力を発揮できる環境があるか、

改革に向けて取り組んでいるかなどです。

— 議会の改革ですか？

社会が変われば議会も変わるのです、改革し続けなければ成熟した議会はつくれません。前例や慣習が障害になることもあるし、行政機関に迎合して進まないこともあるかもしれません。住民の利益や関心を優先できるかがポイントです。

— 議員の改革志向も必要では？

議員を支えるのは住民の力です。分からないことや困ったことがあれば、まずは議員に相談を持ちかけてみてください。

開かれた議会をつくる

— オープンガバメントと民主主義の学校

— 昨年の議会での活動は？

予算審査では前年に続き、修正案を提出しました。賛成少数で否決されましたが、今後につながる問題提起ができました。給食費の無償化や国民健康保険の負担軽減、議会ICT化の経費削減など、議論も深められたと思います。

— 予算修正案の詳細は「文京みらい会派レポート」(1ページ)をご覧ください



— 議会のICT化もですか？

はい。デジタル技術の活用は課題が山積みです。委員会のライブ中継やリアルタイム字幕、オンライン会議など、住民の福祉につながる進化が求められます。

員に相談する。それでも問題が解決しないときは、請願を出して議会に議論する。声を届けることで議会も活性化できます。

— 議員をもっと活用すべきですね。

請願の仕組みや提出方法は、公式ウェブサイトのインタビュー記事をご覧ください



— なのに経費削減というのは？

削減を提案したのは議員全員に貸与するタブレットの導入費用です。大半の議員は既にノートPCやタブレットを公務活動費で購入しています。複数台は税金の無駄遣いですので、手持ちの端末を活用して(BYOD方式)進めるべきと提案しました。

— 提案の経緯は？

それまでは幹事長会や検討会など、議会内部の会議体で取り扱われたためオープンに議論できませんでした。問題をオープンにして大勢で考えるのがオープンガバメントですが、こうした会議体には議事録も傍聴ありません。

——非公開の会議ということですか？

公開されているのは資料と決定事項だけで、どんな意見や議論があつて、どんな方法で決定されたかを区民が知る術がありません。地方自治の主役は区民ですから、クロージドな意思決定は避けるべきです。

——議会運営の問題ですね。

非公開の会議には、水面下の交渉や取引で説明責任を果たせなくなる危険もあります。少数意見や反対意見が抑圧されると会議の質も下がります。

——質を高めるには？

オープンな会議ほど少数者への攻撃や排除が起きにくくなります。威圧的な態度を取る人が少なく、誰もが安心して意見を述べられる心理的安全性が要です。

——少数意見の尊重ですね。

反対に、クロージドな会議では多数派が少数派の発言を萎縮させ、思いどおりすることができません。民主的な議会運営には多数派の監視が必要です。

——議長に不信任決議案を出したと聞きましたか？

オープンな議論や中立公平な議会運営を求める要望書を出したのに、少数意見として聞き置かれたからです。民主的に開かれた議会といいながら、このような議会運営は看過できないと思えました。

経緯の詳細は「文京みらい」の Facebook ページに公開しています



——区民の反応は？

さまざまな意見をいただきました。議事録も録音もないのでは、経緯も根拠も分からないという批判や、納得できる結論

が出なくても議論は尽くすべきという意見のほか、区民が正しい情報を知る難しさや、議員による問題提起の大切さを指摘する声も寄せられました。

——情報公開が足りないということでは？

情報がなければ真偽を判断できませんし、批判や対案を記録しておかなければ後世の検証にも耐えられません。決定事項だけでなく、議論のプロセスも公開すべきという批判です。

——議会の反応は？

こちらもさまざまでした。ベテラン議員からは前代未聞と言われましたし、「多様性を標榜する会派が、議長にだけ多様性を認めないのはおかしい」とも言われました。多様性に寛容な社会を目指すのであれば、不寛容な相手に対しても寛容でなければならぬという批判です。

——不寛容に対する寛容——「寛容のパラドックス」ですか？

そうです。哲学者のカール・ポパーは、不寛容な人々に無制限の寛容を認めると、寛容な人々も社会も滅ぼされてしまうという警告しました。共存するには、オープンに指摘し合い、議論できる環境が必要です。
※カール・ポパーの著書『開かれた社会とその敵』には、理性的な議論や世論によるチェックができていくかどうか、寛容を認められる条件と記されています。
(Karl Popper, (1945), The Open Society and Its Enemies)

——民主的で開かれた議会が必要ということですか？

オープンな議論の場では、互いが無制限に傷つけ合うのを避けられます。正しさを主張し合うより思い込みを開示し合うこと。結論を急ぐより異論や反論を引き出すことが議論の質を高めるポイントです。

——区民の参加も課題では？

議会は言論の府です。問題をオープンにすれば、誰かが必ずアイデアをくれる。自分の意見や考えに間違いがあれば、必ず指摘してくれる。そんな信頼の置ける言論の場をつくるには、多様な視点や立場の区民を巻き込む必要があります。

——「民主主義の学校」ですね。

議会だけでなく同じです。民主的で開かれた話し合いの場があれば、安心して言いたいことを言い合えます。互いに傷つけ合うのではなく気づき合う。悩みや苦しみを隠すのではなく、共有して知恵を出し合う。そんな話し合いをおして生活や地域の課題を解決する体験が、ボトムアップの政治の原点だと思います。

生活と政治の壁を超える

——なにが民主主義を支えているのか？

——議会が身近に感じられないという声も聞きますが、いかがですか？
そもそも政治が遠いんです。政治の話をしづらい社会の空気もあります。生活と政治は直結しているはずなのに、まるで壁があるように感じます。

——政治が分りにくいせいでは？

なぜ分りにくいのかが問題です。政治も社会も複雑化しているのに、メディアも教育も追いついていません。理解できないから参加も意見もできず、人任せにせざるを得ない状況です。

——学校や家庭でも政治の話は避けられがちです。



私も議員になる前は距離を感じていました。社会の空気をつくっているのは私たちです。なぜ政治は避けられるのか、政治を分りにくくする力や政治家の専売特許にする力がどこから生まれるのかを問う必要があります。

——選挙制度も分りにくいですよ？

公職選挙法は戦前の普通選挙法を引き継いだものです。今も分りにくい規制がたくさんあって、立候補や選挙運動への参加のハードルになっています。

——政治家が自分で選挙のルールをつくっているせいでは？

利益相反の問題です。私利私欲ではなく誰



もが参加しやすい制度をつくるには、公正でオープンな議論の場が必要です。

——後進に優しい制度にすべきでは？

社会全体の利益や関心を反映するのが政治です。投票権のない若い人や、これまで参加できなかった人の声も反映した制度をつくるべきです。

——そもそも関心がないという話も？

若い世代は政治家との接点が少なく、関心を持ちにくい状況です。政治や社会のことを身近に話せる人がいない。メディアに出てくる政治家も自分たちに語りかけているように思えない。親しみや憧れを感じられない状況は、政治家自身にも責任があります。

——反対に不信や無関心が広がっているように思えますが。

一人の声では変わらないという無力感や諦

めもです。投票率が下がり政治に関わる人が減れば、余計な口出しをされたくない権力者には都合です。このままでは民主主義の存続自体が危ぶまれます。

——独裁者の思うつぼでは？

選挙で選んだらあとはお任せというのが独裁者の常套手段です。隠蔽や改ざんを繰り返し、知らないところで勝手に決めようとするのは民主主義ではありません。

——独裁者は空気もコントロールします。

社会の空気を決めれば、責任逃れや失敗隠しができるからです。派手なスローガンやプロパガンダで社会の分断や二極化を煽るのも同じ理由です。

——分断や対立を利用する場合も？

敵味方を分ければ、多数決で少数者を切り捨てたり反対意見を無視したりしやすくなるからです。個人の自由な言動を抑圧する空気も独裁が生み出すものです。

——どうすれば変えられると？

意見の表明や権力の監視は、民主主義を守るのに必要なコストです。自分の頭で考えないと空気に流されてしまいますし、強いリーダーへの期待も悪用される危険があります。独裁の根源は一人ひとりの心の弱さです。弱さや間違いを前提にした政治の仕組みが必要です。

——立憲主義もそのひとつですね。

誰もが自由に考えて意見を表明できるのが民主主義で、誰もこれを侵してはならないという基本ルールが立憲主義です。誰だつて文句を言いたいことはあるんです。たとえどんな理由があつても、その自由を奪うことはできない。そう決めて、私たち自身の弱さから自由と人権を守るのが立憲主義の使命です。

私たちの声を政治に届ける — 地方自治の主役は誰か？

——どうすれば政治に声が届くでしょうか？

政治の主役は一人ひとりの主権者です。代表者に任せきりにせず、主権者が対等なパートナーとして政治に参加できる仕組みをつくるべきです。

——代表者が役割を果たせないとときは？

選び直すか仕組みをつくり直すかです。地方議会も首長も、住民が解散や解職を求められます。条例の制定や改廃もです。

——選び直しても同じじゃたら？

選挙では限られた民意しか反映できないので、どんな代表者でも社会全体を代弁できる仕組みをつくる必要があります。代表者が政治権力を乱用しないようルールをつくって監視するのも立憲主義の役割です。

——たとえば？

自治体の憲法とも呼ばれる自治基本条例や議会基本条例です。地方分権で自治体や議会の力が強まるなか、主役である住民が取り残されることのないようにつくられたものです。

文京区の自治基本条例の詳細は
区ホームページをご覧ください
(議会基本条例は未制定)

——どう活用すれば？

区民の政治参加や監視の方法のほかに、区や議会の責務も明記されています。これをもとにオープンに評価する仕組みがあれば、代表者の選び方も変わります。

——実際の参加方法が、選挙だけに限られているのも問題と思えますが。

アメリカの哲学者ノーム・チョムスキーは、「観客民主主義」と呼んでいます。選挙で投票したらまた観客に戻って傍観するだけで、本当の主権者ではないという批判です。

※ノーム・チョムスキー『メディア・コントロール―正義なき民主主義と国際社会』
(Naam Chomsky, (2002), Media Control: The Spectacular Achievements of Propaganda)

——選挙の前だけいいことを言う政治家のせいでは？

政治家 (statesman) は次の時代のことを、政治屋 (politician) は次の選挙のことを考へるとも言われます。政治屋は本業より選挙優先ですので、本業を評価する仕組みをつくるのが先決だと思います。

——政治屋の私利私欲が原因と？

当選が目的の政治屋には、他の政治家は邪魔者です。競争相手が減れば楽になるからです。政治家のなり手不足や人気低迷の理由も同じです。

——ロールモデルも足りないのでは？

主義や主張に近い政治家が増えればパイの奪い合いになるからです。自分が生き残るために後進の育成を疎かにしてしまう構造の問題です。

——リクルートはいかがですか？

私は地域活動を共にした議員から後継を託されました。仕事に熱意や思いがあれば、次世代にバトンを引き継ぎたいと思うはず。余力のあるうちに後継者を育てて引き継げるかどうか政治家の資質だと思います。

——若者が特に挑戦して欲しいのは？

お金やノウハウの不足が原因です。ロールモデルもリクルートの事例も足りません。誰もが政治家を目指せる仕組みをつくるのは先進の責務です。

——そもそも政治家を目指すリスクが高すぎるのでは？

票ハラ（立候補者へのセクハラや暴力）の問題もありますし、票や支援をかたに取る有権者もいます。誰もがチャレンジできなければ、議会の多様性がなくなり、代表制民主主義も機能しなくなります。

——選挙カーで名前を連呼するとか、普通の感覚じゃできませんよね。

普通の感覚の人が政治家になれば変わります。選挙チラシだって、「とにかく顔と名前を大きく書いて、捨てる前の一瞬、目に入れていいから」とデザインナーが言うんです。どうせ中身は読まないという考え方がおかしいんだと分かっていたら変化のチャンスをつくれます。

——私たちも試されますね。

顔と名前だけで投票すると、中身なんて誰も見ないという考えに同調することになります。選挙は有権者にとつても戦いです。「安心してお任せください」という人に本当に任せていいのか、口先だけの政治屋に騙されないためには、主権者としてのアクションも必要です。

——政治家を見極める力が必要と？

チラシや演説はごまかせます。実績も熱意も脚色できるからです。本当に信頼できる人は誰か。人生をかけて未来を切り開く覚悟と誠実さを見極める機会にしてほしいのです。

生活の隅々から民主主義を立ち上げる ——学び合いとケアの政治へ

——子どもたちの将来の夢にも政治家が拳がなくなつたとか？

本当はもつと尊い仕事のはずです。前職の保育士もそうですが、政治家も人の学びや成長を支える仕事です。本当の主役は誰か。主役を助け、支え、力づけるのがどれほど価値ある仕事か。民主主義の本質に気づけば変わります。

——民主主義の学校ですね。

地方自治は最も身近な民主主義の学びの場です。すべての人に門戸を開き、学び合い、力づけ合つて一緒に社会をよくしていこうとするのが本来の自治です。共に考え、話し合い、行動しようとする民主主義の実践者を力づけるには、政治家にも学びの実践が必要です。

——学び合いが民主主義の鍵と？

互いに学び合う対等な関係のパートナーシップが、政治への関心や自己効力感を育てます。多様な考えや立場の人が共存することで、複雑な問題や危機に対応できる集団のレジリエンスも高まります。

——集団の強さということですか？

多様な集団ほど変化に適応し、危機から立ち直る力があります。さまざまな意見や考えの人を受け入れることで、危険を感知する力や活路を見出す力が向上するからです。一見、非効率に見える多様な集団が最後まで生き残る理由です。

——多様性を認めない風潮も感じますが。

能力や功績を勝ち取った人にしか自由を認めない風潮です。反対に、環境や運に

恵まれない人は常に取り残される不安を強いられることになります。

——弱肉強食の論理ですね。

個人の強弱や損得で判断しようとするからです。競争原理で優位に立とうとするお互いに力づけ合うことができません。対等で多様な集団からしか本当の民主主義が育たない理由です。

——どうすれば？

政治は生活のあらゆる場面に関わっています。何を選び、何を食べるか。誰と話し、過ごすか。その選択の繰り返し政治です。何を大切にし、誰を支えるか、日々の選択を大切にすることで、政治や社会の風潮を変えることができます。

——何かを選ぶことが政治と？

どうやって選ぶか、もです。一見、無力に思える一人ひとりの日々の選択が政治の本質です。自分で考え、判断し、行動する。傷ついた人を支える、おかしいと思つたら言葉にする。自由な選択の積み重ねが生活と政治のつながりを取り戻します。

——それを支えるのが政治家ですね。

政治の本質はケアです。諦めかけている人をケアし、力づけること。誰だって本当は諦めたくないんです。人のためになりたいし、社会もよくしたい。一方で、政治も社会も分かりにくくて、つい取り残された気がしてしまう。そんな不安を抱えている人をケアするのが政治家の仕事です。

——自由に生きるための政治と？



自分の人生に関わることくらい、本当は自分で決めたいんです。騙されたくないし、選ばされたくもない。一方で、気づかれないように人を騙したり選ばせたりする仕組みはどんどん精緻化しています。一人ひとりの選択と行動を支え、本当の自由と幸福を守るのが政治です。

——最後にメッセージがあれば。

よりよく生きたい、人や社会のためになりたいという思いを守るには、人が集まり、支え合い、学び合うことで力を高め合う、民主主義の本来の姿を取り戻す必要があります。地方自治は民主主義の学校であり、実践の場です。家族や友人を巻き込んで実践を始める。私たちの生活の隅々から民主主義を立ち上げる。学び合いとケアの政治、一緒に始めませんか。

委員会

予算審査 (R3) / 決算審査 (R2)
/ 建設 / 災害対策 / 子ども子育て

委員会は議会に提出された議案や請願など時々の区政の課題について議論を深める場です。所管ごとの委員会に分かれ、それぞれ会派を代表する委員で構成します。以下に、私が所属する委員会の議論のハイライトを抜粋し、ポイントを解説します。
※委員会の仕組みや構成、会議録や資料は右の公式 web サイトをご覧ください。



予算審査特別委員会 (令和3年度、2021年3月12日)

議員用タブレットの予算案の提出経緯について *1

Q. [沢田]

議事録も作成していない議会内部の会議体で予算案を決定するのは、**自由で開かれた議論**を旨とする民主主義の原則に反するのでは？

A. 【議会事務局長】

議論過程を公開するかどうかは議員同士の話し合いで決まる。前期から何年間も、自由闊達な議論のために、そうした会議で議論を進めてきた。

【解説】意思決定の方法や情報公開の基準が曖昧なクローズドな会議体で、区民の福祉に直結する議論をするのは問題です。区民に開かれた議会をつくるには、**内部の会議体にも明確なルールが必要**です*2。また、議会のICTは、区民から要望のある**ネット中継の拡充**が先決です。

*1 予算の修正案と根拠については、「文京みらい」区議会レポート(2021)をご覧ください。また、修正案の審査結果と経緯(各会派の賛否や意見)については、**2021年3月24日の予算審査特別委員会の会議録(議案第53号 令和3年度一般会計予算に対する「文京みらい」修正案)**をご覧ください。

*2 録音データを保管して検証可能にする、多数決ではなく全会一致の同意で決定するなど。

「文京みらい」
区議会
レポート

CHECK!



予算審査
特別委員会の
会議録

CHECK!



建設委員会 (2020年12月3日、請願審査)

まちづくり基本条例と自治基本条例について

Q. [沢田]

まちづくりの定義や基本理念を**自治基本条例**に定め、社会情勢の変化に応じて定期的に見直すべきでは？

A. 【地域整備課長】

現状は大きな問題はないが、今後の課題解決に必要であれば条例化も検討する

【解説】北海道二セコ町の全国初のまちづくり基本条例の手引には、「**自治の基本を定める条例であり、時代や社会情勢の変化に応じて見直しながら、私たち住民が育てていくもの**」と明記しています。一方で、文京区の自治基本条例は、制定から一度も見直しや充実の検討をされていません。コロナ危機による社会情勢の変化に対応するには、自治の基本に立ち返り、**住民が主役となって条例をアップデート**していく必要があります。

災害対策調査特別委員会 (2021年11月18日)

国土強靱化地域推進計画と事前復興について

Q. [沢田]

SDGsの中核概念であるレジリエンス(強靱さ)を実現するには、**平時のうちに復興後のまちのビジョンを住民と協議し、共有しておくべきでは？**

A. 【防災課長】

国土強靱化地域推進計画にもとづき、想定を超える災害にも迅速な復興を可能とするまちづくりを進める。

【解説】東日本大震災の記憶の風化や防災意識の低下が懸念される一方、コロナ危機で改めて、**自助・共助・公助の多様な主体の有機的な連携**が注目されています。複雑化する地域の課題を複合的に解決する契機として、次の大災害を乗り越えたあとどんなまちに暮らしたいか、**次世代を含めた住民全員で考える事前復興まちづくり**が有効です。

子ども・子育て支援調査特別委員会 (2021年5月17日)

待機児童解消と保育の質の向上、保育士の処遇改善について

Q. [沢田]

コロナ禍で私立園の空員や保育士の退職リスクが高まっている。**保育士の処遇改善**のためにもストレスや満足度の調査が必要では？

A. 【子ども施設担当課長】

保育士のストレスや健康と、背景にある人手不足の問題は聞き取りで把握している。長期的視点に立って巡回指導を強化する。

【解説】区内の保育所数は**過去10年で4倍以上**に増えました。待機児童の解消は進みましたが、保育の質や保育士の処遇には課題が残ります。人手不足は**深刻事故や虐待の危険**にもつながります。区はこれまで、指導検査と巡回指導でチェックしてきましたが、指導員の資質不足や不適切な指導で問題が内在化し、解決が遅れる危険もあります。現場の保育士や施設長自身が主体的に保育の質や自らの取り組みを評価・改善する仕組みをつくるためにも、**アンケート形式の満足度(ES)調査やストレスチェック**による正確な実態把握が必要です。

決算審査特別委員会 (令和2年度、2021年10月11日)

コロナ危機を契機とした持続可能なまちづくりについて

Q. [沢田]

経済財政運営と改革の基本方針に示された、**人の幸福度や満足度に関する評価指標(ウェルビーイング: well-being)**を、本区のまちづくり施策にも設定すべきでは？

A. 【都市計画課長】

都市マスタープランの見直しのなかで検討する。

【解説】パリ市の「15分シティ」構想やポータランドの「20分ネイバーフッド」構想など、自動車の利用や温室効果ガスの排出を抑制し、**徒歩やローカルな公共交通で生活できる人間中心の都市計画**が世界中で打ち出されています。コロナ危機で身近な地域の住環境やQOL(生活の質)が見直され、本当の豊かさが問い直されている今が、新しい都市構想と整備を進めるチャンスです。住民の参加意識と満足度には相関性があるため、**ウェルビーイングの向上には住民主体のまちづくりが有効**です。

建設委員会 (2021年11月29日)

誰もが住み慣れたまちで暮らし続けられるまちづくりについて

Q. [沢田]

一部の住民の声だけでなく、**そこに入れない人や立場の弱い住民の声も考慮して進めるべきでは？**

A. 【地域整備課長】

まちづくり協議会では一部の人の意見が目立つのは確か。少数意見も拾える方法で進める。

【解説】全国で**オンラインのプラットフォームを活用したまちづくり協議会**など、新しいまちづくりの機運が高まっています。**若者や子育て世代**など、これまで参加できなかった人にも声をかけやすく、理解者が増えることで住民主体のまちづくりにもつながります。**SDGsに掲げる誰ひとり取り残さないまちづくり**は、一人ひとりの不安や声を聞くことから始まります。

区議会
ホームページ

会議録
検索



委員会
資料



委員会
構成



地域活動レポート

コミュニティ道路 / 指定避難所

保育士・防災士としての知識と経験を活かし、子育てや教育、まちづくりや防災などの地域活動に携わっています。コロナ危機は身近な地域やコミュニティへの関心を深める契機です。世代を超えてまちぐるみで支え合い、学び合う——誰もが安心して住み続けられるまちを一緒に作りませんか？活動の一端を紹介します。

コミュニティ道路 — 開かれたサードスペースから民主主義の学校へ

- 根津2丁目のコミュニティ道路「**藍染大通り**」。日祝日は時間限定の車両通行規制により、子どもたちの遊び場（**遊戯道路**）として開放されています。地域のイベントや住民同士の交流にも活用され、人のつながりのなかで子どもが育つ「**開かれたサードスペース**」としても注目されています。
- コロナ禍で地域活動が制限されるなか、全国でもオープンな道路空間の価値が再認識されました。国土交通省も路上にテラス席やカフェ、ベンチなどを設置する「**ほこみち制度**」など、歩行者を中心とする多様な道路空間の活用に向けた制度移行を進めています。
- 道路や公園など公共空間の活用は、住民のまちづくりへの参加意識とも直結しています。「**まちはみんなのものであり自分のもの**」——みんなのまちから私のまちへの意識変容が、住民の社会参加を促し、まちの未来を自分たちでつくる地方自治の実践につながります。
- 世代や新旧を超え、多様な住民がゆるやかに集う開かれたサードスペースは、コロナ禍で失われた出会いや交流の機会を取り戻し、まちづくりの当事者意識を育む「**まちなかの民主主義の学校**」です。ぜひ一緒に頑張りましょう。



Column 地域の声① サードスペースってなに？

家でも職場や学校でもない**第三の居場所**。アメリカの社会学者、レイ・オールデンバーグが都市の魅力を高める概念として提唱したもので、住民の憩いや交流の場であるとともに、家庭や職場の役割から解放されてくつろげる場。カフェやバー、居酒屋や図書館など、ゆとりと活気があり、出会いや情報交換、地域活動の拠点としても機能します。特に、住民が主体的に場をつくること（**Place Making**）で、効率化・合理化を優先する都市計画が生んだ孤立や排除の問題を解決し、

地域のコミュニティを再生する契機としても注目されています。文京区でも中高生の活動拠点「**b-lab**」や若者の居場所「**サンカハウス**」(NPO 法人サンカクシャ)、みんなの居場所「**こまじいのうち&こまびよのおうち**」(NPO 法人居場所コム) など、さまざまなサードスペースづくりが進んでいます。

※レイ・オールデンバーグ (2013) 『サードスペース—コミュニティの核になる「とびきり居心地よい場所」』。原著は Ray Oldenburg, 1989. The Great Good Place: Cafes, Coffee Shops, Bookstores, Bars, Hair Salons, and Other Hangouts at the Heart of a Community

指定避難所 — 自主防災組織を核に地域コミュニティを再生する

- 区内に33か所ある地震時の指定避難所のひとつ「**根津小学校**」。地区の住民の避難所として、町会役員や学校・区職員を中心に運営されています。防災物資の備蓄、在宅避難の住民支援や支那物資の受入など、**地区の防災拠点**の機能も担います。
- 根津地区は災害危険度が高く、建物の倒壊や焼失により避難者が殺到し、避難所があふれる危険も指摘されています。また、コロナ禍で在宅避難のニーズが高まるなか、家具転倒対策や住宅の耐震・不燃化、避難行動要支援者の支援体制づくりなど、**地域まるごとの対策**が必要です。
- 任意加入の町会や自治会には、世代継承や高齢化のほか、すべての住民のニーズをカバーできない課題があります。防災・防犯、福祉、教育、文化行事など、複雑化する地域課題を住民の自治で解決するには、世代や新旧を超えた**多様な住民の協働と組織化**が求められます。
- 防災や災害復興は地域の主要課題のひとつです。防災士など地域の人材育成も進んでいます。地区単位で防災士会を組織し、多様な活動団体と連携して避難所運営や防災訓練の企画にあたるなど、**自主防災組織を核とする地域のネットワーク**がコミュニティ再生の鍵です。



Column 地域の声② 防災士ってどんな人？

防災力向上と意識啓発を担う**地域の防災リーダー**として創設された民間認証資格。地域での啓発や訓練、災害時の避難誘導や初期消火、救出救助、避難所開設のほか、被災地での避難や復興などの支援活動に率先して参加します。

先行研究*によると、地域の防災力の要は**意欲のある防災リーダーと、これを支える組織や制度**にあり、防災リーダーの育成には、地域での関わりや役割のほかに、住民の協力や自己効力感、仲間づくりや

交流の楽しみなどの継続動機が必要です。こうした知見を踏まえ、文京区でも資格取得の経費補助に加え、地域の自主防災組織で活動する防災士を独自に認定し、研修や連絡会をとおした交流とネットワーク化を進めています。**防災リーダーの育成とエンパワーメント**が、地域の防災力向上の手がかりです。

※石井沙知香 (2021) 『M-GTA を用いた地域防災リーダー行動開始・継続プロセスの研究』 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 2020 年度修士論文, pp.115-118

Profile



●立憲民主党 / 文京みらい / 保育士 / 防災士 ●1979 年 愛媛県松山市生まれ。1998 年 愛光学園高校卒業、2002 年 東京大学農学部卒業、2005 年 同大学院修士課程修了 ●学生時代から文京区の下町の長屋に暮らし、保育士・園長として保育や人材育成、地域・学校との連携を担い、父母の会や PTA、NPO、町会で地域活動やまちづくりに携わる ●家族は、妻と息子 3 人 (小・中・高) の 5 人 ●趣味は、まち歩き / 寺社巡り / お祭り巡り / ラジオ体操 / 自転車ツーリング / キャンプ / ツリークライミング / プレイパーク / ペーゴマ / DIY / ギターの弾き語り / 絵本の読み語り / 料理 / 草木染 / 写真 / 読書 / 銭湯 / 日記 ●主な職歴は、船堀中央保育園 保育士 (2006-14)、江東区白河かもめ保育園 園長 (2014-16)、台東区立たいとうこども園 副園長 (2016-18) ●主な経歴は、文京区立駒込保育園父母の会 会長 (2010-11)、文京区認可保育園父母の会連絡会 会長 (2010-12)、文京区基本構想推進区民協議会 委員 (2010-12)、文京区教育改革区民会議 委員 (2012-14)、文京区立藍染保育園父母の会 会長 (2014-15)、NPO 法人コドモ・ワカモノ・まち ing 監事 (2011-19)、NPO 法人保育の安全研究・教育センター 監事 (2012-19)、文京区立根津小学校 PTA 副会長 (2019-20)。現在は、藍染町会 総務補佐・青年部 副部長 (2014-)、根津弥生七ヶ町連合会 防災士、根津小学校避難所運営協議会 委員 (2015-)

Keiji Sawada